



学びを通じた「人づくり、つながりづくり、地域づくり」のために

令和7年度がスタートしました。今の県内の様子と言えば、昨年度末からの大船渡市の大規模林野火災の復旧復興に様々な立場で関わっている方の存在が頼もしく感じられます。また、高校生ボランティアの活躍や、他県から派遣された消防隊への小中学生の感謝のメッセージなど、被災住民や関係者へ心を寄せる県民性が色濃くみられています。岩手県だけではないと思いますが、誇るべき県民性と言っても過言はないと思います。

内陸部でも別な誇るべき県民性が見られます。この春関東から岩手に帰郷して学校現場で働いている方から「岩手の子は素朴で素直でやさしく、先生方地域の大人に大きな声であいさつをする姿がすばらしい」と伺いました。都会では防犯上、知らない人にあいさつをしないように小学生に指導しているようです。先日、「マンション内のあいさつはやめるよう管理組合に保護者から依頼」という記事を見かけました。昨今の報道では、痛ましい事件事故が頻発しているように感じ、子どもが地域で育つことよりも、犯罪被害に遭わないことを優先することは当然ですが、県内どこでも見られる「あいさつあふれる地域」は、都会では「あたりまえ」ではないようです。

国は第4期教育振興基本計画（教育基本法第17条に拠る）において「地域コミュニティの基盤を支える社会教育の重要性や必要性について」下記の記載があります。

（社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成）

○ 地域において人々の関係を共感的・協調的なものとするためには、社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められる。こうして形成された地域の人々の関係は持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となる。「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされる。地域で人と人とのつながりを作り、協調的な幸福感を紡ごうと取り組んでいる人たちが自信と誇りを持つことができるようにしていく必要がある。

【中央教育審議会生涯学習分科会社会教育の在り方に関する特別部会意見の整理より】

社会教育の今日的目的の一つに「学びを通じた人づくり、つながりづくり、地域づくり」ということがあります。例として、公民館の高齢者学級で集まった住民が親しくなり、地域の子どもの対象とした事業で昔の遊び体験のお世話をしたり、学校に出向いて児童生徒と交流したりすることが期待できます。ここから様々なことが派生していくはずです。高齢者同士の関係ができること、子どもと地域の高齢者の関係ができること、話を聞いた保護者が地域の高齢者の様子を知ることなどです。このような関係構築は、高齢者の孤立を防ぐだけでなく、「あいさつあふれる地域」とともに地域コミュニティの基盤となり、災害時に大いに役に立つはずです。また、地域住民が教育に関わることで子どもたちは教師、親以外の方からたくさんのことを学ぶことができます。ただ、これらの「学び」から「地域づくり」に発展させることは、日頃の事業の見直しや他部局との連携、NPO等との協働、住民の地域づくりの理解促進など、不断の努力が社会教育職員に求められることとなります。前年度踏襲の事業推進ではマンネリ化を招き、高齢化によるコミュニティの固定化、担い手不足に対抗する術がありません。

当センターでは、持続的な地域づくりを意識し社会教育職員や志ある県民皆様のために今年度も多くの講座を準備しております。どうぞ、受講いただき、地域コミュニティの基盤づくりの一助になれば幸いです。（所長：千葉 憲一）

【岩手県立生涯学習推進センター研修講座 7月以降のもの】

7月 9日	ICT スキルアップ研修講座 3（Word）
7月29日	人・つながり・地域づくり関係職員等研修講座（宮古会場）
8月 1日	コミュニケーションスキルアップ研修講座
8月18日	人・つながり・地域づくり関係職員等研修講座（盛岡会場）
8月21日	学校と地域の連携・協働研修会
9月 1日	人・つながり・地域づくり関係職員等研修講座（県南会場）
9月 8日	放課後の子どもの居場所指導者研修会 2
9月10日	地域安全防災研修会
9月26日	人・つながり・地域づくり関係職員等研修講座（県北会場）
10月 3日	子育て・家庭教育セミナー 2
10月10日	事業づくり研修講座
10月15日	広報スキルアップ研修講座
11月17日	人・つながり・地域づくり関係職員等研修講座（中部会場）
11月25日	人・つながり・地域づくり関係職員等研修講座（沿岸南部会場）
11月27日	子育て・家庭教育セミナー 3
12月 2日	ICT スキルアップ研修講座 4（Excel）
12月10日	ICT スキルアップ研修講座 5（Power Point）
1月29・30日	県生涯学習推進研究発表会

「居場所づくりと社会教育」



令和7～8年 1年次

不登校、自殺者の増加、孤独死等、様々な問題がメディアで取り上げられています。それに伴い、近年「居場所」「居場所づくり」という言葉がよく聞かれるようになりました。人間関係の希薄化や生きづらさを感じやすい社会で、ファーストプレイスとしての家庭、セカンドプレイスとしての学校や職場、そしてサードプレイスとしての第三の居場所づくりが求められています。居場所と言っても子ども・若者の居場所、高齢者の居場所、障がい者の居場所等、対象も多様です。また、子ども食堂、放課後学童クラブ、サロンやカフェ等、実施方法も様々あります。そもそも居場所づくりには法律や定義がありません。

そこで、一年次は文献調査と実地調査を実施し、居場所とはどういうものかということについて、仮説を立てることとしました。文献調査を通して、居場所とは「ありのままの自分でいられる場」「他者から承認・尊重されている場」「教育ではなく、人との関りが重視されている場」という要素が多く含まれていることが分かってきました。

今後は、実地調査を多く行い、自己教育活動として自主的に行っている居場所づくりに対して、社会教育行政がどのように関わればよいのか、公民館や地区センター等の社会教育施設がどのように居場所づくりを展開しているのかについて調査・研究を進めていきます。

「博物館」の地域における社会教育的役割に関する研究



令和6～7年 2年次

近年、博物館に求められる役割が多様化・高度化していることを踏まえ、博物館の設置主体の多様化を図りつつその適正な運営を確保するため、法律の目的や博物館の事業、博物館の登録の要件等を見直すなど、これからの博物館が、その求められる役割を果たしていくための規定を整備することを目的として、博物館法が一部改正されました。世界的にも国際博物館会議（ICOM）が開かれ、博物館の定義が2022年に改正されています。

1年次は、その法律や定義の改正を踏まえ、博物館という施設の歴史的背景や博物館に求められている役割など、文献・資料を通じてまとめました。また、県内施設の現状を知るため、アンケート調査を行いました。アンケート結果から、多くの施設が課題を抱える中でも「館の特色を出せている」ということが分かりました。そこには、各施設の努力と工夫があることが予想されます。また、7割以上の施設が「地域と連携している」と答えていますが、双方向的な連携は少ない傾向であるという現状が読み取れました。

2年次は、県内外の「博物館」が社会や地域の課題にどのように向き合っているか、その先進事例を調査し、取り組みや方法について探ります。また、「博物館」の地域における社会教育的役割について整理し、各施設の活動が継続的に改善・向上し続けるための方策について検討します。

岩手県立生涯学習推進センター 事業報告

5/7(水)12(月)実施 ICT スキルアップ研修講座 1

オンライン配信について学ぶことを目的として開催し、20 名が受講しました。前半は配信に必要なネットワーク環境や、機材について学びました。エンコーダーソフトウェアの「OBS Studio」を用い、実際の配信のシーンをつくりました。後半は、スタジオで配線を組み YouTube の配信設定を行う演習を行いました。受講者から「実技で学んだことを生かすことができた」という感想をいただきました。実際に機材を組みパソコンを操作し配信を行ったことで、有意義な研修となりました。



背景を消す「クロマキー処理」の方法を学び、OBS で映像の加工処理をしています。



スタジオでカメラを設置し配線を組み、実際に配信をしている様子です。

5/30(金)実施 地域学校協働活動推進員(コーディネーター)等研修会

「地域コーディネーターの役割とは?」「学校運営協議会では何をするのか?」などの悩みを解決することを目的として開催し、42 名が受講しました。講義では、学校を核とした地域づくりの本質とは、「人のつながりをしっかり作っていくこと」であるということを教えてくださいました。グループで悩みを語り合う交流の時間が設けられ、有意義な時間となりました。廣瀬氏は引き出しが豊富で、悩みの解消につながる事例や考え方を的確に提示していただきました。受講者からは「取り組み方のイメージができた」「今まで取り組んできたことは間違いでなかった」という感想をいただきました。



講義・演習では廣瀬隆人氏からの熱意が伝わってきました。



演習のグループでの情報交換を行う様子です。参加者の皆さんが「人のつながり」の大切さを実感しました。

5/13(火)14(水)実施 新任生涯学習関係職員研修講座

生涯学習関係職員の資質向上を図ることを目的として開催し、計 60 名が受講しました。岩手大学名誉教授 新妻二男氏から「生涯学習の理念と社会教育」と題し講義いただきました。紫波町教育委員会事務局 社会教育指導員 佐々木勉氏から「シン・参加型学習とは～参集・参与・参画を使い分けよう～」と題し、講義・演習いただきました。選択研修では、いわて子どもの森チーフプレーリーダー 長崎由紀氏から「すぐにできるアイスブレイク」について、With Color 嶋田佳子氏からは「基本から学ぶビジネスマナー」について、当センター社会教育主事 高橋啓からは「これからはじめるオンライン配信」について、岩手県障がい者スポーツ協会事務局長 三浦拓朗氏からは「ポッチャなどを通して学ぶ障がい者スポーツ」について御指導いただきました。受講者から「社会教育の役割の大きさをわかりやすく理解でき、とても有意義だった」という感想をいただきました。



新妻二男氏から、社会教育の課題や担当者求められる資質についてご講義いただきました。



選択研修「ポッチャなどを通して学ぶ障がい者スポーツ」ではポッチャを体育館で実際に体験しました。

6/3(火)実施 読書ボランティア研修会

子どもの読書活動に必要とされる資質の向上を目的として開催し、162 名が受講しました。講演会では絵本作家 サトシン氏から読み聞かせの楽しみ方についてのお話をいただきました。受講者との「掛け合い読み」なども取り入れて、会場からは何度も笑いが起こりました。選択研修では特別非営利活動法人おはなしころりん理事長 江刺由紀子氏から「わらべうた・手遊びを取り入れた読み聞かせスキルアップ」について、県南青少年の家所長 佐藤敦士氏から「コミュニティスクールを活かした読書推進」について、胆江ゆめネットワーク副代表 藤井江里氏から「ブックトークをする手順やポイント」について、県立図書館 指定管理者資料管理課 加藤智春氏から「本の修繕方法について」ご指導をいただきました。受講者からは「絵本がますます好きになり、子ども達に伝えていきたい」という感想をいただきました。



サトシン氏は、テンポの良い語り掛けで、受講者の心を引き付けました。



選択研修「わらべうた・手遊びを取り入れた読み聞かせスキルアップ」で、小道具を使って体験する様子です。

生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」の紹介

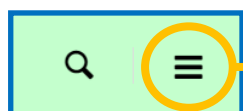
生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」は下記二次元コードを読み取ることでスマートフォンでも閲覧可能です。

URL⇒<https://manabinet.pref.iwate.jp>

掲載情報を5つのカテゴリーに分類し、これまでより情報を検索しやすくしました。



スマートフォンを
ご使用の場合



画面右上のメニューボタンを
タップしてご覧ください

画面をスクロール
すると「TOPICS」
や新着「NEWS」
などが見られます。

各カテゴリーの内容は以下の通りです。

【地域学校連携】……………コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、教育振興運動など

【子育て・家庭教育】……すこやか相談、すこやかメールマガジン、子どもの読書活動など

【生涯学習・社会教育】……マナビイマガジン、公民館等の事業支援、生涯学習ボランティアセンターなど

【各種資料】……………当センター調査・研究資料、情報誌、県社会教育基本調査など

【生涯学習推進センター】…当センターの概要、アクセス、研修講座情報など

「岩手県立生涯学習推進センター情報」第124号 / 編集・発行 岩手県立生涯学習推進センター

〒025-0301 花巻市北湯口2-82-13 電話0198-27-4555 FAX 0198-27-4564